



・行・者・会  
・京・都・障・害・者・ス・ポ・ー・ツ・振・興

# 西井賢一君の死を悼む

## アーチエリーに懸けた人生

京都障害者スポーツ振興会  
副会長 水谷 裕

先月25日、ちょうど「全国車いす駅伝競走大会」のあった日、この日、西井君の奥さんは、車いす駅伝のスタッフとして全国から来洛したアスリート達を見守る予定であった。しかし、1週間前には全く思っても見なかった場所において、あることを見守っていた。しかも、駅伝のレースが始まって間もない午前11時40分過ぎ、雪の舞う中、アーチエリーに人生を懸けた西井君が家族に見守られながら60余年の人生を静かに閉じる

ところをだった。

彼との付き合いは結構永く、出逢いは彼が奈良で全国身体障害者スポーツ大会が開催された時に京都府の代表選手へその時は陸上で出場）として選ばれた時からと認識している。その後、南部地域で開いた障害のある人々のためのスポーツの講習会でアーチエリーを紹介したところ興味を持つたよう、自ら京都府アーチエリー連盟の教室の門を叩き、やがて、府連傘下の西京極クラブに籍を置き、障

害のない人々の中で、練習を重ねメキメキ腕を上げ、国民体育大会の京都府代表選手に名を連ねるようになり、さらには、パラリンピツクの日本代表選手にも名を連ねるようになった。これは、彼が誰よりもアーチエリーを愛し続け、足の不自由なものにとつて立位で長時間競技するという負の部分をもともせずに努力し続けたことと、彼の夢を理解し、アーチエリーにのめり込み没頭して用具等の購入に多額の費用が掛かって、その実現に協力された奥さんやご家族があつたればこそである。

彼は結構頑固で、アーチエリーの競技や練習の場面で自分のやり方を譲らずコーチを困らせたという事も聞いたことがあるが、これらも、トツプアスリートだからこそ成せることなのだらう。また、お悔やみの電話を掛けた時こういうエピソードも奥さんから聞いた。彼は多くの試合に出場し、数々の賞を取ったが、「優勝以外は要らない」と言つて、他のトロフィや賞状などは手元に残さなかつたとのことであつた。いかに彼らしい仕草である。

彼と私は、お互い言いたいことを言う中であつたが、ある時「あまり奥さんに負担をかけるなよ」と言つたら「アーチエリーを最初に教えたのは誰や、責任を取ってくれ」と反対に言われたことも今は思い出になつてしまつた。

私にできなかったことを、アーチエリーを通して実現していく彼が、実のところ羨ましかつたが、自分には無理、でも、彼がアーチエリーをするキツカケをつくつたのは自分。彼がどんな国内から世界へと懸け上がった行くのが自分のことのようにうれしかつた。

彼は、JAPANのユニホームを着て旅立ったとのこと。あつちでも、日本代表になつて頑張つてくれ。京都の障害のある人々に夢を与えてくれてありがとう。

3月2日に行われた、京都市障害者スポーツセンターの室内アーチエリー大会において、この悲しいお知らせと黙祷をさせてもらったが、誰もが彼の生前の姿から、信じられないという表情と同時に、惜しむ声が聞かれた。

京都の、いや、日本中の障害のあるアーチエリー仲間とともに、彼の死に対して哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈りしたい。

そして、彼を支えてくれた奥さんやご家族にも、ありがとうと言いたい。

西井賢一さんのご冥福を心からお祈りします

編集者一同

